

公務員試験の概要

試験の概要

公務員試験は大きく分けて、業務遂行に必要な知識・適性を見る一次試験と、人間性を見る二次試験で構成されます。

●一次試験は、SPI3 などの試験を採用する自治体も増えているが、下記の試験を課しているところが多い。

教養試験(一般知能、一般知識など)

専門試験(大卒事務系試験や技術系職種、保育士などの資格職で課される場合が多い)

適性試験・適性検査

論文・作文試験 など

●二次試験

面接(集団面接、個人面接など)

各自治体の試験の特色

職種や自治体によって、試験の内容には違いがあります。

受験する自治体の HP で受験案内を確認しましょう。

・**国家公務員、東京都、特別区** 独自の問題を使用。過去問が公表されているので、どんな問題が出されているかチェックしましょう。

・**その他の自治体** 上記を除いたほとんどの自治体は過去問を公開していませんが、大まかに分けていくつかのパターンがあり、傾向が大きく変わることは少ないようです。

また、「公益財団法人 日本人事試験研究センター」が、全地方公共団体のうち 80.1%に問題提供実績があると公表しています。そのほか、SPI3 などの民間の試験を活用している自治体もあるようです。

日本人事試験研究センターの提供する試験の特徴

上記センターの HP によると、市役所などの自治体へ提供される試験問題は、以下の 基本試験に適性試験などを組み合わせたものが多いようです。それぞれの特徴を押さえておきましょう。

・**基本試験の特徴**

Standard〈標準タイプ〉Ⅰ：大卒向け、Ⅱ：高卒向け

(知能分野 20 題/知識分野 20 題、五肢択一式、解答時間 120 分)

Logical〈知能重視タイプ〉Ⅰ：大卒向け、Ⅱ：高卒向け

(知能分野 27 題/知識分野 13 題、五肢択一式、解答時間 120 分)

知識分野での「自然に関する一般知識」の出題はありません。知能分野(文章理解、判断・数的推理、資料解釈)が重視されます。

BEST(職務基礎力試験)

(BEST-A:60 題、四肢択一式、解答時間 60 分)

2024 年4月よりLightが廃止され、BEST-A(職務能力試験)と BEST-P(職務適応性検査)の2つが新設されました。

Light の出題形式をベースとした問題で、受験に備えての特別な準備・勉強の必要がなく、短時間で実施できるものです。

論理的な思考力、言語的な能力、資料分析力、国内外の社会情勢への理解等を確認する試験です。

以上